

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
投入された事業費の推移	国費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	一般財源	計画額	353,000	348,000	344,000	1,045,000	339,000	334,000	330,000	1,003,000	327,000	325,000	324,000	324,000	1,300,000	3,348,000
		予算計上額	353,000	348,000	344,000	1,045,000	339,000	335,000		674,000					0	1,719,000
		実績額	29,164	24,839	104,008	158,011	15,868			15,868					0	173,879
	事業費合計	計画額	353,000	348,000	344,000	1,045,000	339,000	334,000	330,000	1,003,000	327,000	325,000	324,000	324,000	1,300,000	3,348,000
		予算計上額	353,000	348,000	344,000	1,045,000	339,000	335,000	0	674,000	0	0	0	0	0	1,719,000
		実績額	29,164	24,839	104,008	158,011	15,868	0	0	15,868	0	0	0	0	0	173,879
	事業費予算の内容		R3分 出資金・借入利息等	R4分 出資金・借入利息等	R5分 出資金・借入利息等		R6分 出資金・借入利息等	R7分 出資金・借入利息及び修繕費								
	前年度予算との比較 (増減理由)		出資金負担分の増減	出資金負担分の増減	出資金負担分の増減		出資金負担分 (起債の利息)の増減	出資金負担分 (起債の利息)の増減								
実績との比較 (増減理由)		修繕費の支出なし	修繕費の支出なし	修繕費の減額 (落雷によるテレメーターの修繕のみ)による		修繕費の支出がなかったため										

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：対象戸数				指標の求め方：—									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：対象地区水道普及率				指標の求め方：水道接続戸数÷対象戸数									
			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/戸)	計画値 17	17	17		17	17	17		17	17	17	17		
			実績値 17	17	17		17									
	指標	成果指標 1 (単位/%)	計画値 100	100	100		100	100	100		100	100	100	100		
			実績値 100	100	100		100									
	評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
		総合評価				良好である										
			自己分析： 全戸接続したことにより、安心・安全で安定した水道水の供給ができてい る。	自己分析： 全戸接続したことにより、安心・安全で安定した水道水の供給ができてい る。	自己分析： 全戸接続したことにより、安心・安全で安定した水道水の供給ができてい る。	判断理由： 全戸接続したことにより、制度が行き渡っており事業としては良好であると判断した。	自己分析： 全戸接続したことにより、安心・安全で安定した水道水の供給ができてい る。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
			総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析													
		今後の方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 全戸接続したことにより、安心、安全で安定した水道水の供給ができてい るため、継続する事業と考える。				R8：				R10：					

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

事業名	北光袋地地区水道料金助成事業				事業期間	平成23年度 ～ 年度							
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	5-4-1	他に関連する基本事業	—	—	—	—	所管課係	都市計画課管理係
目的 (何のために実施するのか)	北光袋地地区の世帯に対し水道料金の一部を助成し、砂川市内における水道料金の格差を解消する。							手段 (どのような方法で実現するのか)	西空知広域水道企業団が定める水道料金と中空知広域水道企業団の定める水道料金の差額を助成する。				
対象 (誰・何を対象としているのか)	西空知広域水道企業団から水道水の供給を受けている北光袋地地区世帯。							成果 (どのような効果が得られるのか)	砂川市内における水道料金の地域格差が解消される。				
事業開始時の状況・これまでの経緯	平成23年10月31日からの試験通水期間を経て平成23年11月11日から正式通水を実施。以降、安全で安定した水道水の供給が図られている。助成金については半年分をまとめて4月、10月に対象世帯へ支出。対象世帯数は現在、袋地地区18件のうち町内会館1件（助成対象外）を除く17件。												

【DO】

実績

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：助成件数				指標の求め方：1年あたりの助成件数									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：1件当たりの助成額				指標の求め方：事業費÷助成件数									
			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 業務 事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/件)	計画値 204	204	204		204	204	204		204	204	204	204		
			実績値 204	204	204		204									
		成果指標 1 (単位/円)	計画値 1,176	1,176	1,176		1,176	1,176	1,176		1,176	1,176	1,176	1,176		
			実績値 1,152	1,118	1,086		1,097									
	評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
		総合評価				良好である										
			自己分析： 同一市内における 較差解消が図 られている。	自己分析： 同一市内における 較差解消が図 られている。	自己分析： 同一市内における 較差解消が図 られている。	判断理由： 全戸接続したことにより、制度 が行き渡っており事業としては 良好と判断した。	自己分析： 同一市内における 較差解消が図 られている。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
			総合評価の判断 理由または指標 の実績値に関する 自己分析													
		今後の方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 指標は達成されており、同一市内における格差解消が図られている。 全戸接続により、安心、安全、安定した水道水の供給ができて いるため、継続すべき事業と考える。				R8：				R10：					

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：水質検査箇所数				指標の求め方：水質検査実施事業所数											
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：基準値内事業所数				指標の求め方：当該年度に調査した事業所のうち、基準値内の水質で排水している事業所数											
				第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総 合 計 画 計		
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計			
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/箇所)	計画値	20	20	20		20	20	20		20	20	20	20				
			実績値	18	19	15		15											
		成果指標 1 (単位/件)	計画値	15	15	15		16	16	16		17	17	17	17				
			実績値	14	14	14		10											
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている												
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない												
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない												
		総合評価					良好である												
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析		自己分析： 事業者が排水水質について下水道条例に示す基準を管理することで、公共用水域の保全が保たれるので、今後とも継続的な水質検査事業が必要。	自己分析： 事業者が排水水質について下水道条例に示す基準を管理することで、公共用水域の保全が保たれるので、今後とも継続的な水質検査事業が必要。	自己分析： 事業者が排水水質について下水道条例に示す基準を管理することで、公共用水域の保全が保たれるので、今後とも継続的な水質検査事業が必要。	判断理由： 計画的に検査を実施しており基準値超過の事業所に通知することにより、事業者も排水水質を把握してきており、排水水質の改善に繋がっていることから、評価については良好と判断した。	自己分析： 事業者が排水水質について下水道条例に示す基準を管理することで、公共用水域の保全が保たれる。 また、成果指標において、目標値を達成することができなかったため、排水の水質基準を超過している事業者に対して、継続的に指導を行うことが必要であると考えられることから、今後とも継続的な水質検査事業が必要。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：						
今後の方向性					現状のまま継続														
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 特定施設を中心に計画的に検査を実施することにより良好な環境衛生の維持につながる必要な事業である為、今後も継続していく。				R8：				R10：									

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：改築更新設備数				指標の求め方：更新・更正等を行う設備数											
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：改築更新対象施設整備率				指標の求め方：改築実施箇所数／改築計画箇所数×１００											
				第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総 合 計 画 計		
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計			
事業 業務 事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/箇所)	計画値 1.0	1.0	1.0		1.0	1.0	1.0		1.0	1.0	1.0	1.0					
			実績値 1.0	0.0	1.0		1.0												
		成果指標 1 (単位/%)	計画値 9.1	18.2	27.3		36.4	45.5	54.5		72.7	81.8	90.9	100.0					
			実績値 9.1	9.1	18.2		27.3												
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている												
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない												
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					少し上がっている												
		総合評価					良好である												
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析		自己分析： 長寿命化計画完了に伴い、旧計画である「公共下水道施設改築更新事業」、	自己分析： 令和３年度に策定されたストックマネジメント計画に基づき、	自己分析： 計画に基づき北光1号マンホールポンプ所の改築工事を行った。	判断理由： 令和３年にストックマネジメント計画を策定し、概ね計画とおりに事業を振興できているため、評価は良好と判断した。	自己分析： 計画に基づき北光2号マンホールポンプ所の改築工事を行った。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：				
				「公共下水道管路調査事業」を統合し、下水道施設資産を計画的・効率的に管理するためのストックマネジメント計画を策定した。	マンホールポンプ改築工事設計を行い、次年度以降の改築工事の準備を進めた。また、公共下水道管渠点検により、管渠の劣化状況を調査し補修または改築方針の判断資料として成果が得られた。	また、公共下水道管渠点検を継続的に行い管渠の補修・改築方針の判断資料としていく。		また、空知太中継りポンプ場改築実施設計を行い、次年度以降の改築工事の準備を進めた。											
	今後の方向性					現状のまま継続													
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5：今後増大するであろう老朽化した下水道施設に対して、点検・調査・修繕・改築のPDCAサイクルを適切に実施するためには、本計画に基づき優先順位を把握しながら事業を行うことが求められる。交付金を活用し財源確保に努めるためにも継続して事業を進めていきたい。								R8：				R10：					

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：整備面積				指標の求め方：污水管渠整備に伴う下水道供用開始区域面積									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：公共下水道汚水整備率				指標の求め方：整備面積／認可面積×１００									
				第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総 合 計 画
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 業務 事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/ha)	計画値 0.00	0.00	0.00	0.84	0.84	0.00		0.00	0.00	0.00	0.45				
			実績値 0.00	0.00	0.00	0.00											
		成果指標 1 (単位/%)	計画値 78.7	78.7	78.8	78.8	78.9	78.9		78.9	78.9	78.9	79.0				
			実績値 78.7	79.3	79.3	79.3											
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている											
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない											
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない											
		総合評価				良好である											
			自己分析： 今年度は事業を実施しなかったが、事業計画変更策定を行っており、今後とも地先要望や土地利用状況を勘案しながら事業を継続していく。	自己分析： 今年度は事業がないが、今後とも地先要望や土地利用状況を勘案しながら事業を継続していく。	自己分析： 今年度も新たな土地利用がなく、事業実施はないが、今後地先要望や土地利用状況を勘案しながら事業を継続していく。	判断理由： 污水管渠の整備については、普及率、水洗化率も目標値に達しており、整備率が伸びていない理由は区域内の未開発によるものである。整備は状況に応じて実施するものであるため、評価については良好と判断した。	自己分析： 今年度も新たな土地利用がなく、事業実施はないが、今後地先要望や土地利用状況を勘案しながら事業を継続していく。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：			
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析															
今後の方向性					現状のまま継続												
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 計画的かつ必要に応じて事業は進んでおり、事業費についても交付金および過疎債を活用することで財源確保に努めている。普及率向上による生活環境の改善に繋がっており、今後も計画的に事業を進めることとするが、公共下水道計画区域については、市内の開発状況を見極め、適切な区域に見直す必要があると考えられる。				R8：				R10：							

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

事業名	流域下水道整備事業				事業期間	昭和60年度 ～ 年度								
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設	第7期総合計画の位置付け	5-4-2	他に関連する基本事業	—	—	—	—	—	所管課係	都市計画課管理係
目的 (何のために実施するのか)	石狩川流域中部地区の生活環境の整備や水質保全を図るため、北海道が実施する石狩川流域下水道整備事業により関連市町の公共下水道から流れ出る汚水を広域的に一括処理することで、円滑・安定的な公共下水道事業の運営及び快適な生活環境の充実を図る。							手段 (どのような方法で実現するのか)	終末処理場建設費及び流域幹線管渠・ポンプ場等の建設に係る費用を北海道及び関連市町で負担する。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	公共下水道使用者及びし尿処理施設使用者。							成果 (どのような効果が得られるのか)	広域的な終末処理場の建設により公共投資の抑制に繋がり、一括汚水処理をすることにより安定的な公共下水道事業の運営が図られるとともに、汚水処理経費の軽減が図られる。 また、し尿の広域的な下水道施設での共同処理により、既存のし尿処理施設の設備投資等経費の軽減及び施設の有効活用が図られる。					
事業開始時の状況・これまでの経緯	石狩川は昭和45年に水域類型の指定がなされ、これを受けて昭和46年に石狩川流域下水道事業計画が策定され、昭和49年に石狩川流域下水道事業が開始された。 本市の流域関連公共下水道事業計画は、昭和54年に第1期事業計画に着手し、幾度かの変更を経て現在に至っている。 本市は中部処理区に属し、流域下水道幹線に排出された汚水は奈井江浄化センターで処理され石狩川へ放流される。													

【DO】

実績

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 計	
投入された事業費の推移	国費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額	12,900,000	12,900,000	12,900,000	38,700,000	35,600,000	35,600,000	35,600,000	106,800,000	35,600,000	35,600,000	35,600,000	35,600,000	142,400,000	287,900,000
		予算計上額	12,900,000	17,400,000	28,700,000	59,000,000	40,100,000	56,800,000		96,900,000					0	155,900,000
		実績額	3,100,000	10,100,000	10,400,000	23,600,000	15,600,000			15,600,000					0	39,200,000
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	一般財源	計画額	2,011,000	2,011,000	2,011,000	6,033,000	3,959,000	3,959,000	3,959,000	11,877,000	3,959,000	3,959,000	3,959,000	3,959,000	15,836,000	33,746,000
		予算計上額	3,271,000	3,677,000	3,632,000	10,580,000	4,004,000	4,374,000		8,378,000					0	18,958,000
		実績額	2,898,235	2,995,292	3,677,615	9,571,142	3,838,274			3,838,274					0	13,409,416
	事業費合計	計画額	14,911,000	14,911,000	14,911,000	44,733,000	39,559,000	39,559,000	39,559,000	118,677,000	39,559,000	39,559,000	39,559,000	39,559,000	158,236,000	321,646,000
		予算計上額	16,171,000	21,077,000	32,332,000	69,580,000	44,104,000	61,174,000	0	105,278,000	0	0	0	0	0	174,858,000
		実績額	5,998,235	13,095,292	14,077,615	33,171,142	19,438,274	0	0	19,438,274	0	0	0	0	0	52,609,416
	事業費予算の内容		北海道が施工する流域下水道整備事業に対する負担金	北海道が施工する流域下水道整備事業に対する負担金	北海道が施工する流域下水道整備事業に対する負担金		北海道が施工する流域下水道整備事業に対する負担金	北海道が施工する流域下水道整備事業に対する負担金								
	前年度予算との比較 (増減理由)		事業量の増による	事業量の増による	事業量の増による		事業量の増加及び前年に行えなかった事業の繰越分により増加	事業量の増加及び前年に行えなかった事業の繰越分により増加								
	実績との比較 (増減理由)		事業量の減一部を次年度に繰越	事業量の減一部を次年度に繰越。前年の繰越分は資材不足による工事の規模減により不使用	一部を次年度に繰越。国からの補助金が予算額を下回ったため予定した工事数に満たず減額となった		一部を次年度に繰越。国からの補助金が予算額を下回ったため予定した工事数に満たず減額となった									

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：流域下水道建設事業費	指標の求め方：—
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：水洗化率	指標の求め方：水洗化人口÷下水道処理人口

				第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総合計画
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 業務 事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値	480,840	480,840	480,840		480,840	480,840	480,840		480,840	480,840	480,840	480,840		
			実績値	82,015	276,594	1,012,320		1,711,745									
		成果指標 1 (単位/%)	計画値	98.5	98.5	98.6		98.6	98.7	98.7		98.8	98.8	98.9	98.9		
			実績値	98.7	98.7	98.8		98.8									
	評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
		総合評価					良好である										
			自己分析： 汚水を広域的に 一括処理するこ とで経費削減等 が図られ安定的 な下水道事業の 運営に繋がって いる。	自己分析： 汚水を広域的に 一括処理するこ とで経費削減等 が図られ安定的 な下水道事業の 運営に繋がって いる。	自己分析： 汚水を広域的に 一括処理するこ とで経費削減等 が図られ安定的 な下水道事業の 運営に繋がって いる。	判断理由： 施設の老朽化に より工事数の増 が見込まれる が、資材価格の 高騰等で計画的・継続的な工 事を行うことが 困難となり、年 度ごとの事業費 にばらつきが目 立つようになった が、今後基本的 には費用は増え ていくものと考えられる。し かし汚水を広域的に一括処理す ることで各市町の負担は軽減さ れていることから、評価につい ては良好と判断した。	自己分析： 汚水を広域的に 一括処理するこ とで経費削減等 が図られ安定的 な下水道事業の 運営に繋がって いる。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
		今後の方向性					現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 施設の老朽化により工事数は増えるはずだが、資材不足等が原因で計画的・継続的な工事を行うことが困難となり、年度ごとの事業費にばらつきが目立つようになったが、今後基本的には費用は増えていくものと考えられる。しかし汚水を広域的に一括処理することで各市町の負担は軽減されており、今後も流域下水道と連携し汚水処理事業の効率性の運営に努める。				R8：				R10：						

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
投入された事業費の推移	国費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額	500,000	500,000	500,000	1,500,000	500,000	500,000	500,000	1,500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	2,000,000	5,000,000
		予算計上額	500,000	500,000	500,000	1,500,000	500,000	500,000		1,000,000					0	2,500,000
		実績額	0	0	0	0	0			0					0	0
	一般財源	計画額	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000	10,000
		予算計上額	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000		2,000					0	5,000
		実績額	0	0	0	0	0			0					0	0
	事業費合計	計画額	501,000	501,000	501,000	1,503,000	501,000	501,000	501,000	1,503,000	501,000	501,000	501,000	501,000	2,004,000	5,010,000
		予算計上額	501,000	501,000	501,000	1,503,000	501,000	501,000	0	1,002,000	0	0	0	0	0	2,505,000
		実績額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	事業費予算の内容		50万円/1基及び振込手数料1千円	50万円/1基及び振込手数料1千円	50万円/1基及び振込手数料1千円		50万円/1基及び振込手数料1千円	50万円/1基及び振込手数料1千円								
	前年度予算との比較 (増減理由)		前年度同額	前年度同額	前年度同額		前年度同額	前年度同額								
実績との比較 (増減理由)		1基分の予算に対し実績なし	1基分の予算に対し実績なし	1基分の予算に対し実績なし		1基分の予算に対し実績なし										

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：水洗化人口普及増加分	指標の求め方：—
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：水洗化率	指標の求め方：水洗化人口÷下水道処理人口

			第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総合計画
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 8 実績値 0	8 0	8 0		8 0	8 0	8 0		8 0	8 0	8 0	8 0		
		成果指標 1 (単位/%)	計画値 98.5 実績値 98.7	98.5 98.7	98.6 98.8		98.6 98.8	98.7 0	98.7 0		98.8 0	98.8 0	98.9 0	98.9 0		
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
		総合評価				良好である										
			自己分析： 1基分の予算に 対し貸付実績なし。衛生環境向上のためにも引き続き未普及世帯へ水洗化工事に対する融資のPRを行っていく。	自己分析： 1基分の予算に 対し貸付実績なし。衛生環境向上のためにも引き続き未普及世帯へ水洗化工事に対する融資のPRを行っていく。	自己分析： 1基分の予算に 対し貸付実績なし。衛生環境向上のためにも引き続き未普及世帯へ水洗化工事に対する融資のPRを行っていく。	判断理由： 成果指標について令和元年以降伸びが止まっているが、それは成果指標の水準が非常に高くなったことが一因であることから水洗化率の向上について評価は良好と判断した。	自己分析： 1基分の予算に 対し貸付実績なし。衛生環境向上のためにも引き続き未普及世帯へ水洗化工事に対する融資のPRを行っていく。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
		今後の方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 水洗化工事費の一部を融資する本制度については今後も必要と考える。水洗化が進んだことにより制度の利用件数は現状少なくなっているが引き続き業者等と連携したPRの促進に努め、水洗化率の向上に繋げる。				R8：				R10：					

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
投入された事業費の推移	国費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額	500,000	500,000	500,000	1,500,000	500,000	500,000	500,000	1,500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	2,000,000	5,000,000
		予算計上額	500,000	500,000	500,000	1,500,000	500,000	500,000		1,000,000					0	2,500,000
		実績額	0	0	0	0	0			0					0	0
	一般財源	計画額	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000	10,000
		予算計上額	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000		2,000					0	5,000
		実績額	330	0	0	330	0			0					0	330
事業費合計	計画額	501,000	501,000	501,000	1,503,000	501,000	501,000	501,000	1,503,000	501,000	501,000	501,000	501,000	2,004,000	5,010,000	
	予算計上額	501,000	501,000	501,000	1,503,000	501,000	501,000	0	1,002,000	0	0	0	0	0	2,505,000	
	実績額	330	0	0	330	0	0	0	0	0	0	0	0	0	330	
事業費予算の内容		500千円/1基及び振込手数料1千円	500千円/1基及び振込手数料1千円	500千円/1基及び振込手数料1千円		500千円/1基及び振込手数料1千円	500千円/1基及び振込手数料1千円									
前年度予算との比較 (増減理由)		前年度同額	前年度同額	前年度同額		前年度同額	前年度同額									
実績との比較 (増減理由)		1基分の予算に対し貸付実績なし	1基分の予算に対し貸付実績なし	1基分の予算に対し貸付実績なし		1基分の予算に対し貸付実績なし										

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：合併処理浄化槽年間設置基数				指標の求め方：年間に設置した基数									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：合併処理浄化槽整備率				指標の求め方：合併処理浄化槽使用人口÷下水道計画区域外人口									
			第 1 次実施 3 カ年計画				第 2 次実施 3 カ年計画				第 3 次実施 4 カ年計画					第 7 期 総合計画
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 カ年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第 10 年次 (12年度)	実施 4 カ年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/基)	計画値 10 実績値 1	10 0	10 1		10 1	10 1	10 1		10 10	10 10	10 10	10 10		
		成果指標 1 (単位/%)	計画値 54.3 実績値 50.2	54.7 50.2	55.1 50.6		55.5 51.0	55.9	56.3		56.7	57.1	57.5	57.9		
		事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				あまり達成されていない										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				少し上がっている										
	評価内容	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
		総合評価				普通である										
			自己分析： 1基設置したが、 貸付実績なし。 衛生環境向上のためにも引き続き未設置世帯へのPRの必要あり。	自己分析： 対象区域がほぼ農村地域であり、 高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。 しかし衛生環境向上のためにも引き続き未設置世帯へのPRの必要あり。	自己分析： 今年度は1基設置したものの、 貸付の実績はなし。 対象区域がほぼ農村地域であり、 高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。 成果指標の伸びは人口減による影響もあるが、対象地区の人口減を考慮すれば、事業についての評価は普通であると判断される。	判断理由： 対象区域がほぼ農村地域であり、 高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。 成果指標の伸びは人口減による影響もあるが、対象地区の人口減を考慮すれば、事業についての評価は普通であると判断される。	自己分析： 今年度は1基設置したものの、 貸付の実績はなし。 対象区域がほぼ農村地域であり、 高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。	自己分析： 対象区域がほぼ農村地域であり、 高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。	自己分析： 対象区域がほぼ農村地域であり、 高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。	判断理由： 今年度は1基設置したものの、 貸付の実績はなし。 対象区域がほぼ農村地域であり、 高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。 衛生環境向上のため、引き続き未設置世帯へのPRを行っていく。	自己分析： 今年度は1基設置したものの、 貸付の実績はなし。 対象区域がほぼ農村地域であり、 高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。	自己分析： 対象区域がほぼ農村地域であり、 高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。	自己分析： 対象区域がほぼ農村地域であり、 高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。	自己分析： 対象区域がほぼ農村地域であり、 高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。	判断理由： 今年度は1基設置したものの、 貸付の実績はなし。 対象区域がほぼ農村地域であり、 高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。 衛生環境向上のため、引き続き未設置世帯へのPRを行っていく。	
		今後の方向性				現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 計画値に対し実績値が少ないため総合評価は良好とは言えないが、市の水質保全と生活環境の改善のためにこの活動は必要と判断しているので、今後も業者と連携し貸付制度も含めた普及PR活動に努め、合併処理浄化槽の利用促進に繋げる。 また、個別排水処理施設整備事業の計画区域については、公共下水道計画区域と整合を図りながら、市内の開発状況を見極め、適切な区域に見直す必要があると考えられる。				R8：				R10：					

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

[illegible]

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）			指標名：合併処理浄化槽年間設置基数				指標の求め方：年間に設置した基数									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）			指標名：合併処理浄化槽整備率				指標の求め方：合併処理浄化槽使用人口／下水道計画区域外人口									
			第 1 次実施 3 カ年計画				第 2 次実施 3 カ年計画				第 3 次実施 4 カ年計画					第 7 期 総 合 計 画 計
			第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 カ年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 カ年 合 計	
事 務 事 業 評 価	指 標	活動指標 1 (単位/基)	計画値 10	10	10		10	10	10		10	10	10	10		
		実績値	1	0	1		1									
	成果指標 1 (単位/%)	計画値	54.3	54.7	55.1		55.5	55.9	56.3		56.7	57.1	57.5	57.9		
		実績値	50.2	50.2	50.6		51.0									
	評 価 内 容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている										
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				少し上がっている										
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
		総合評価				普通である										
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 対象区域がほぼ農村地域であり、高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。	自己分析： 対象区域がほぼ農村地域であり、高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。しかし衛生環境向上のためにも引き続き未設置世帯へのPRの必要あり。	自己分析： 今年度は 1 基設置。対象区域がほぼ農村地域であり、高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。	判断理由： 対象区域がほぼ農村地域であり、高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。成果指標の伸びは人口減による影響もあるが、設置数の実績もあることから評価については普通であると判断した。	自己分析： 今年度は 1 基設置。対象区域がほぼ農村地域であり、高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 対象区域がほぼ農村地域であり、高齢化や家屋の老朽化の進行等により、年間設置基数は鈍化している。そのため計画値に対し実績値が少なく、総合評価は良好とは言えないが、市の水質保全と生活環境の改善のためにこの活動は必要と判断しているので今後も業者と連携し、貸付制度も含めた普及PR活動に努め、合併処理浄化槽の利用促進に繋げる。				R8：				R10：						